nite
安全とあなたの未来を支えます

（別添）
２０１９年１１月２８日
ＮＩＴＥ（ナイト）
独立行政法人製品評価技術基盤機構
九州支所

News Release

石油ストーブ・石油ファンヒーターの事故、５年間で７人死亡（九州・沖縄８県版）

～給油時は、細心の注意を払いましょう～

気温が下がり、ストーブなどの暖房器具※1 を使用する機会が増えています。NITEでは、これら暖房器具の事故の多くが火災に至り、死亡や重傷につながることから注意喚起します。

2014 年度から 2018 年度までの５年間に NITE（ナイト）に通知のあった製品事故情報※2 では、九州・沖縄８県において、暖房器具の事故は合計 78 件※3 ありました。そのうち火災事故が 86%（67 件）を占めています。これらの事故は 10 月から増え始め、1 月にピークを迎えます。

人的被害（死亡、重傷、軽傷）の発生状況をみると、死亡事故が 14 件（18 人）発生しています。被害者は年代が上がるにつれて増加し、死亡事故では 60 歳以上が 79%（11 件（14 人））を占めています。

製品別の発生状況をみると、石油ストーブ・石油ファンヒーターは 100%（23 件中 23 件）の確率で火災となっており、他の製品より火災の発生割合が高くなっています。また、石油ストーブ・石油ファンヒーター及び電気ストーブ・電気ファンヒーター（92%（36 件中 33 件））の両者を合わせると、暖房器具の火災事故全体の 84%（67 件中 56 件）を占めています。

石油ストーブ・石油ファンヒーターは、人的被害が 9 件（14 人）、死亡事故 5 件（7 人）で、九州・沖縄８県では電気ストーブ・電気ファンヒーター（人的被害 12 件（16 人）、死亡事故 6 件（8 人））に次いで発生件数が多く、火災事故 23 件のうち、11 件（48%）が建物の全焼・半焼と、暖房器具の事故の中で最も多くなっています。

死亡事故では、ストーブへの給油時に灯油がこぼれて火災になったり、間違えて給油したガソリンに引火した事故が発生しています。

石油ストーブ・石油ファンヒーターによる建物の全焼・半焼や死亡事故の多くは、使い方が原因による事故※4です。

空気が乾燥して火災になりやすい冬場を迎えている中、以下のポイントに注意し、石油ストーブ・石油ファンヒーターの事故を未然に防ぎましょう。

■石油ストーブ・石油ファンヒーターの事故を防ぐポイント

○給油する前に必ず消火する。給油後は、給油口キャップをしっかりと締め、灯油がタンクから漏れないことを確認してから本体にセットする。

○誤給油を防ぐため、灯油は灯油用ポリタンクなどの専用容器に入れ、ガソリンとは別の場所で保管する。また、灯油、ガソリンといったラベル表示をするなど、誤給油を防ぐための対策を徹底する。

○暖房器具の周囲に可燃物などを置かない。特に衣類などを暖房器具で乾かさない。

○就寝する前に必ず消火する。

（※1） 本資料で対象とする製品は、本部発行のプレスリリース2ページ目を参照。

（※2） 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含める。

（※3） 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

（※4） 誤った使用及び誤った使用が疑われる事故。

１．暖房器具の事故の発生状況

１．１　九州・沖縄8県での月別の事故発生状況

2014年度から2018年度までの九州・沖縄8県での暖房器具の事故78件について、図1に「月別の火災発生状況」を示します。 火災事故は、事故全体の86%（67件）を占めています。また、10月から3月までの間に全体の89%（69件）の事故が発生しています。

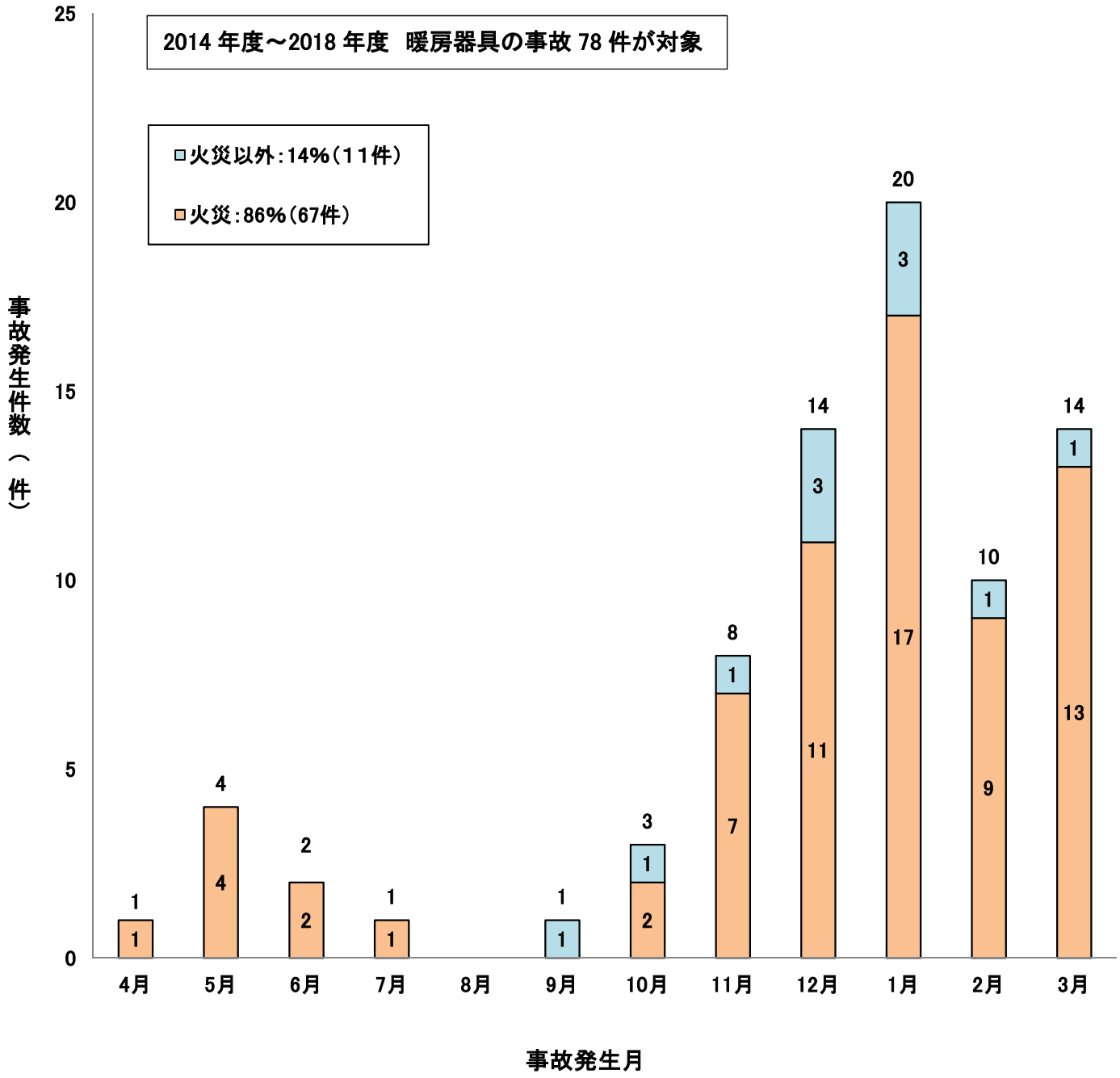

図1：九州・沖縄8県での月別の火災事故発生状況

1．2　九州・沖縄8県での被害状況

2014年度から2018年度までの九州・沖縄8県での暖房器具の事故78件について、図2に「被害状況」を示します。 人的被害は、30件（39人）発生しています。内訳は死亡が14件（18人）、重傷3件（5人）、軽傷13件（16人）発生しています。

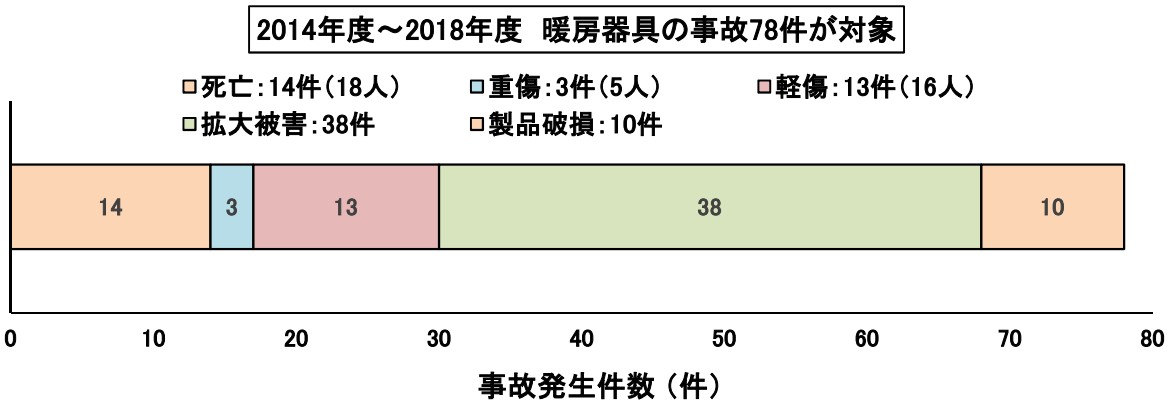

図2：九州・沖縄8県での被害状況

1．3　九州・沖縄8県での年代ごとの人的被害発生状況

2014 年度から 2018 年度までの九州・沖縄8県での暖房器具の人的被害が生じた事故の被害者 39 人のうち、年齢が判明した 32 人について、図3に「年代別の人的被害状況」を示します。死亡者数は、60 歳以上が全体の 78%（14 人）を占め、年代が上がるにつれて増加しています。そのうち、80 歳以上は全体の 39%（7 人）を占めています。

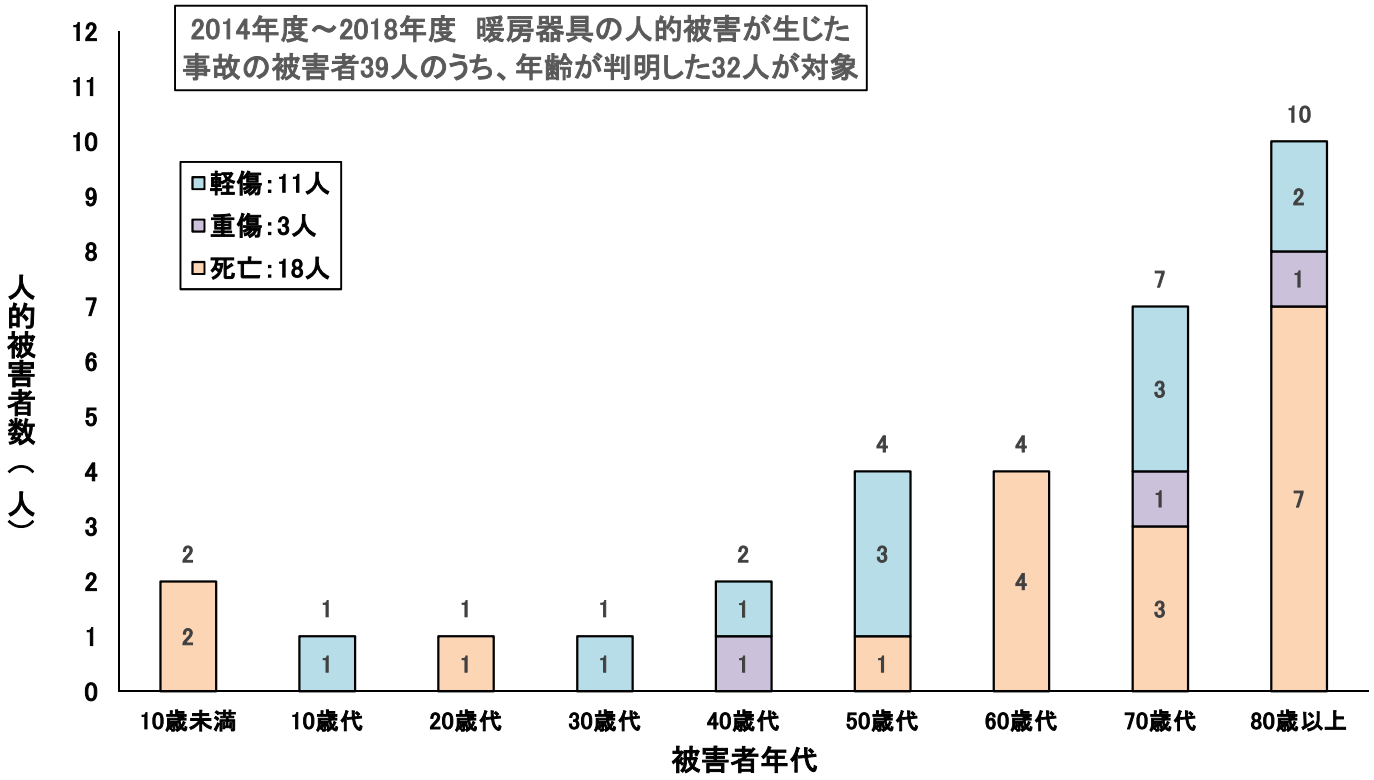

図3：九州・沖縄8県での年代別の人的被害状況※6

（※6）　年代が不明な重傷 2 人、軽傷 5 人を除く

1．4 九州・沖縄8県での製品別の事故発生状況

2014 年度から 2018 年度までの九州・沖縄8県での暖房器具の事故 78 件について、図4に「製品分類別の火災発生状況」を示します。石油ストーブ・石油ファンヒーターは 100%（23 件中 23 件）の確率で火災になっており、他の製品より火災の発生割合が高くなっています。また、48%（11 件）で建物の全焼や半焼となっています。

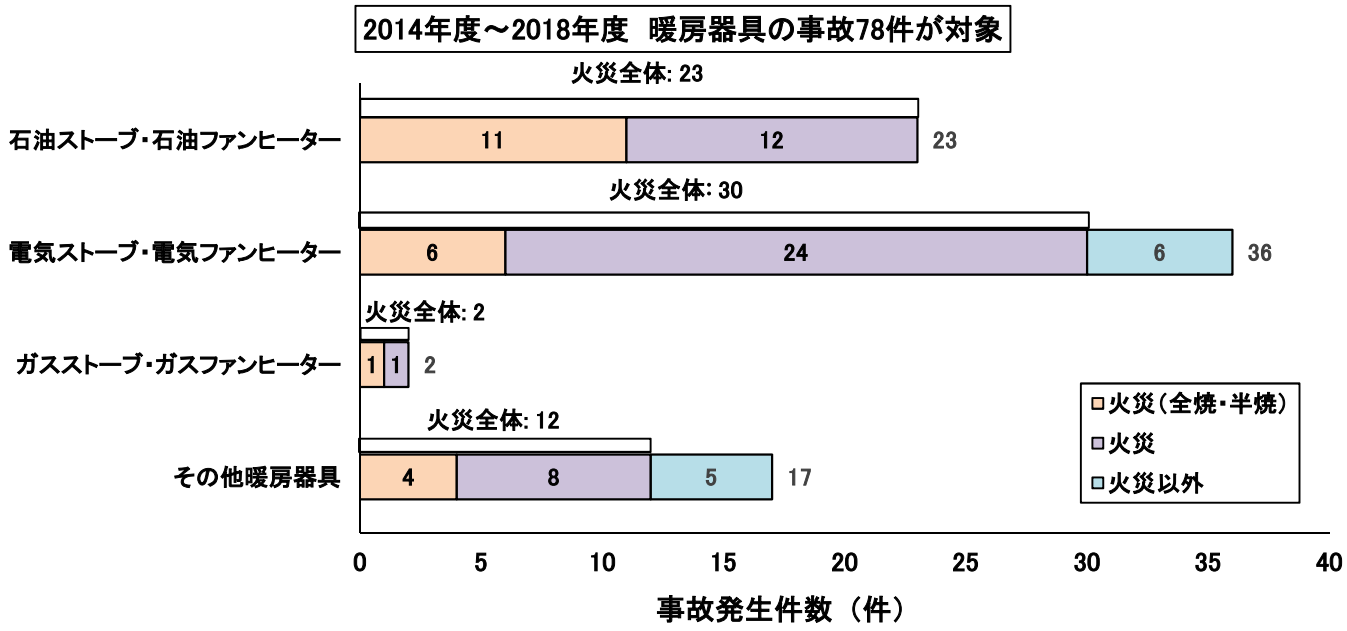

図4：九州・沖縄8県での製品分類別の火災発生状況

図5に九州・沖縄8県での「製品別の事故発生状況」を示します。石油ストーブ・石油ファンヒーター及び電気ストーブ・電気ファンヒーターの両者を合わせると、全体の 76%（59 件）を占めています。また、製品別では石油ストーブ及び電気ストーブの2製品で、全体の 64%（50 件）を占めています。

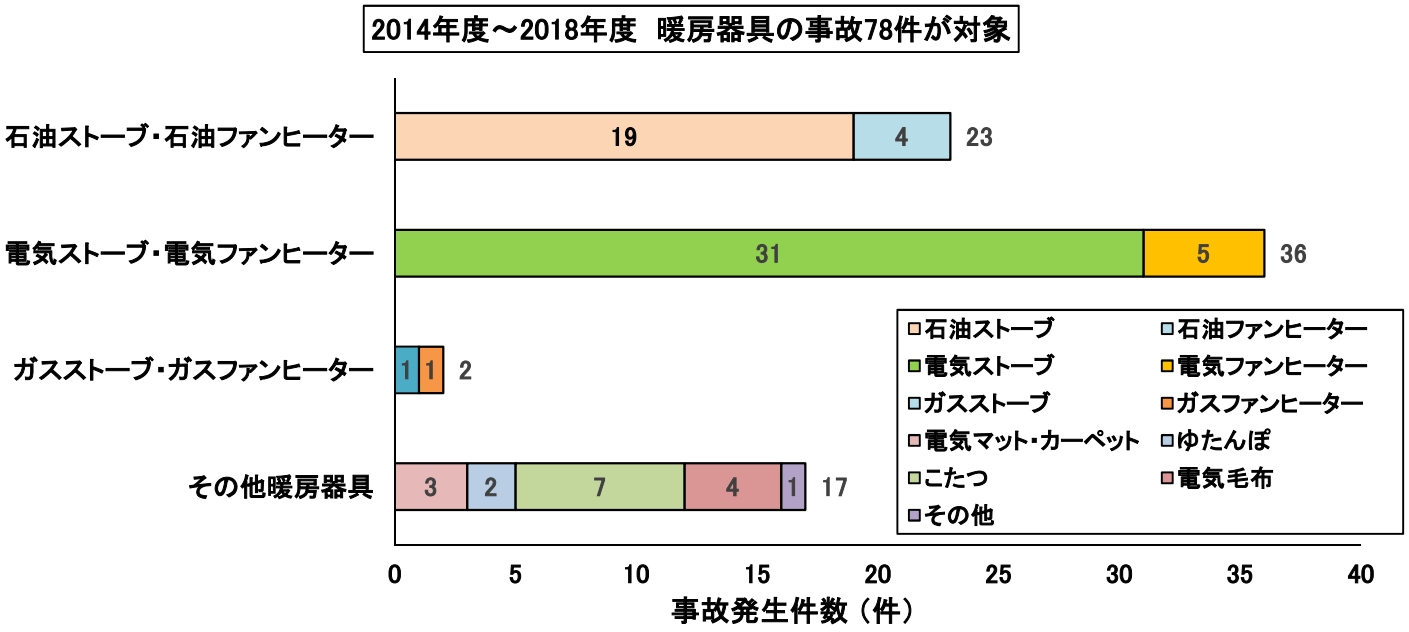

図5：九州・沖縄8県での製品別の事故発生状況

2014 年度から 2018 年度までの九州・沖縄8県での暖房器具の事故 78 件のうち、人的被害（死亡、重傷、軽傷）の生じた事故 30 件（39 人）について、図6に「製品分類別の人的被害状況」を示します。九州・沖縄8県では電気ストーブ・電気ファンヒーターで最も多く人的被害が生じています。

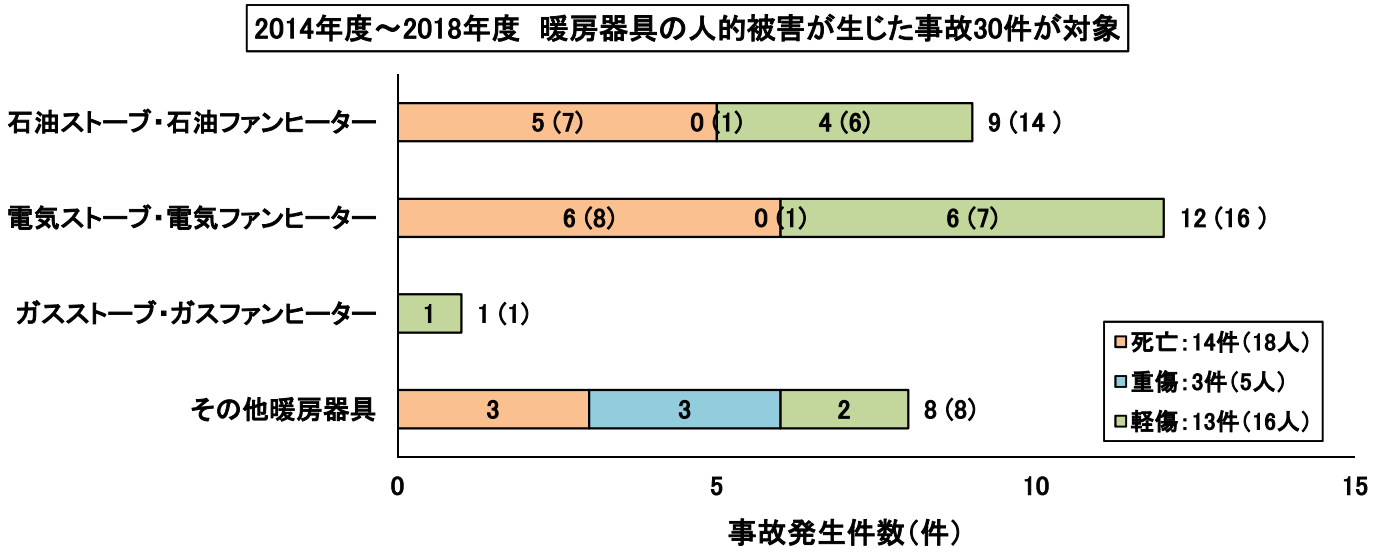

図6：九州・沖縄8県での製品分類別の人的被害状況※7

（※7）（　）内は被害者数。（　）がないものは事故件数と被害者人数が同数のもの。
石油ストーブ・石油ファンヒーター及び電気ストーブ・電気ファンヒーターの重傷者数は死亡事故と同一の事故で重傷を負った各1人を含む。

1．5　九州・沖縄8県でのリコール製品の事故

2014 年度から 2018 年度までの暖房器具の事故 78 件について、図7に「製品分類別　リコール対象製品の事故発生状況」を示します。

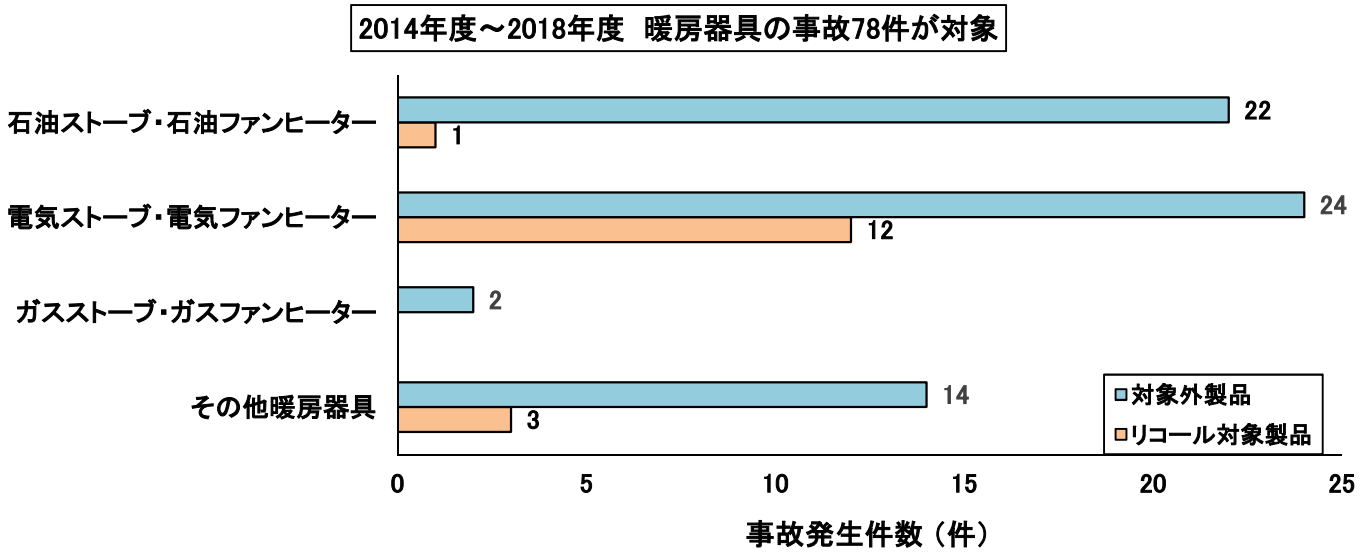

図7　九州・沖縄8県での製品分類別　リコール対象製品の事故発生状況

2. 石油ストーブ・石油ファンヒーターの事故の発生状況

九州・沖縄8県での石油ストーブ・石油ファンヒーターの事故発生状況について、以下に示します。

2．1　事故原因ごとの被害状況

2014年度から2018年度までの石油ストーブ・石油ファンヒーターの人的被害が生じた事故9件の事故原因について、表1に「事故原因ごとのの被害状況」を示します。

事故原因は、大きく分けると「使い方による事故」※4と「不明」に分けられます。「使い方による事故」は、燃焼筒や置き台などの取付不良で異常燃焼した事故や給油口キャップの閉め忘れ及び締め付け不良によって引火した事故、ガソリンの誤給油により出火した事故が発生しています。

表1：九州・沖縄8県での事故原因ごとの被害状況

事故原因		死亡	重傷	軽傷	計
燃焼筒や置台などの取付不良（組合せ不良も含む）で異常燃焼		2			2
		（3）			（3）
給油口キャップの閉め忘れ及び締め付け不良による引火		1			1
		（1）	（1）※8		（2）
ガソリンの誤給油により出火				1	1
				（1）	（1）
小　計	事故件数	3	0	1	4
	被害者数	（4）	（1）	（1）	（6）
不明		2		3	5
		（3）		（5）	（8）
計	事故件数	5	0	4	9
	被害者数	（7）	（1）	（6）	（14）

（※4）　誤った使用及び誤った使用が疑われる事故。

（※8）　同一の事故で使用者（死亡）とは別に重傷を負った人の数

２．２　九州・沖縄８県での人的被害が生じた事故の年代別発生件数

2014 年度から 2018 年度までの石油ストーブ・石油ファンヒーターの人的被害が生じた事故 9 件による被害者の総数は 14 人です。そのうち、年齢が判明した 10 人について、図8に「年代別　人的被害者数」を示します。

死亡者数は、すべて 60 歳以上で7人です。

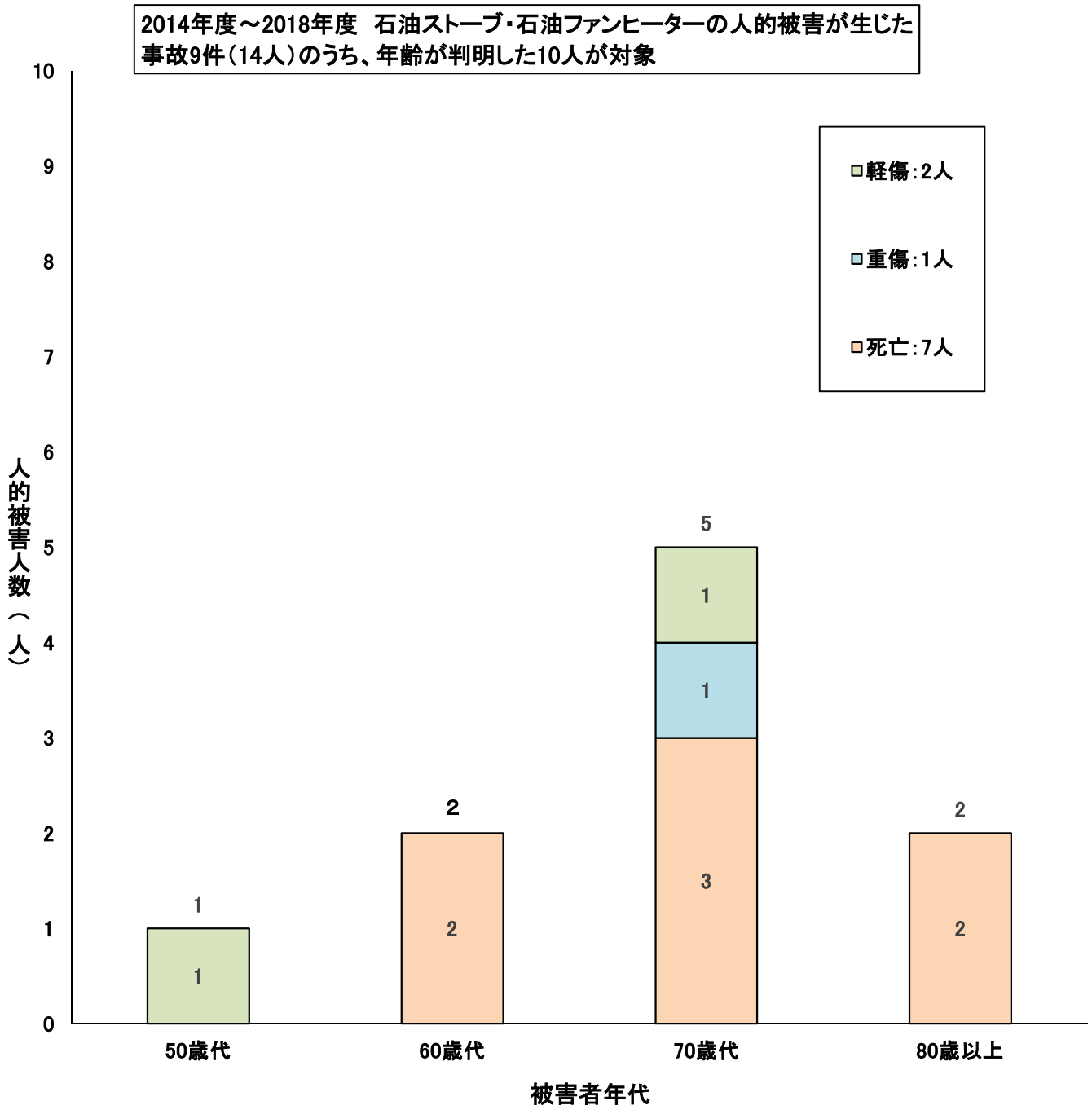

図８：九州・沖縄８県での石油ストーブ・石油ファンヒーターの年代別人的被害者数※9

（※6）　年代が不明な軽傷 4 人を除く

3. 石油ストーブ・石油ファンヒーターの事故事例

九州・沖縄8県での石油ストーブ・石油ファンヒーター事故の事例を示します。

3．1　ガソリンの誤給油

2018 年 1 月（宮崎県、60 歳代・男性、拡大被害）

【事故内容】
石油ストーブを使用中、石油ストーブ及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故原因】
石油ストーブにガソリンを誤給油して燃焼させたため、異常燃焼が生じて出火したものと考えられる。
なお、取扱説明書には、「ガソリンの使用禁止」旨、記載されている。

3．2　燃焼筒の取付不良による事故

2017 年 5 月（佐賀県、80 歳代・女性、死亡）

【事故内容】
石油ストーブ及び建物を全焼する火災が発生し、2名が死亡した。

【事故原因】
石油ストーブの燃焼筒は同事業者製の別型式のものであり、リサイクルショップで購入されたものであるが、別型式の燃焼筒が組み合わされた時期、経緯は不明であった。石油ストーブの燃焼筒寸法が大きかったため、本体と燃焼筒の嵌合は不完全な状態であり、異常燃焼が生じた可能性が考えられる。

4. 石油ストーブ・石油ファンヒーターの事故の実験映像の提供

石油ストーブ・石油ファンヒーターの事故の実験映像の写真及び動画をご希望の場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。
なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構＋ロゴ」としてください。

※nite ロゴ

（本件に関する問い合わせ先）

〒815-0032　福岡県福岡市南区塩原 2-1-28
独立行政法人製品評価技術基盤機構
九州支所　技術課
担当者　澤田、篠崎

電話：092－551－1315、FAX：092－551－1329
e-mail:sawada-mitsuhiro@nite.go.jp
e-mail:shinozaki-kenzo@nite.go.jp

以　上